



ブックレビュー

大学で何を学ぶか

健康科学部 医療経営管理学科 山口政人

本書は“より良い人生を歩むための生き方論”を学生向けに分かり易く説いた本である。著者は人間をテーマとした数々の本を出している加藤諦三氏(社会学者)である。私が本書を手にしたのは現在の職に就いてからのことである。日々多くの学生と接する中で、実に様々な理由で入学してきた学生がいることを知った。どの分野で学ぼうとも、二度とないこの素晴らしい学生時代を大事にしてほしいと思っている。しかし私自身、学生に的確な助言が出来ているのか?と考えることが多くなった。そもそも大学で学ぶとは何だろうか、4年間とはどういう時間なのか、次々と疑問が湧いてくる。ここでじっくり考えてみる必要があると感じていた時、本書と出会った。

さて、本屋に行くときよく似た題名の本が結構並んでいる。ほとんどがノウハウ本であるが、本書は異なっていた。本書は“自分のありのままの姿を見つめ、自分の足の上で人生を築いていく素晴らしさ”を著者の人生経験を基に易しく説いている。著者は「人生は運命ではなく、生き方で決まる。問題は、何としても良い人生を送りたいと思うかどうかである。その執念を大学で身につけ

る。」と述べている。更に「人間にはあることを学ぶ時期がある。早くても遅くても身につかない時期がある。」と述べ、大学時代が如何に貴重な時間であるかを伝えようとしている。著者と関わった人々の様々な人生ドラマも例に上げ、人間が持つ強さ、弱さ、優しさ、泥臭さを独自の視点で解説し、人間関係や出会いの大切さを教えてくれる。私は卒業して20年経つが、本書を読んで著者の考えに共鳴したり、時に批判的な気持ちになるなど読み応えがあった。今学生である皆さんはどのように感じるだろうか。

本書は全6章からなる。第1章「ゼロから学ぶ」、第2章「講義から学ぶ」、第3章「進路を学ぶ」。著者の失敗、屈辱、出会いの経験から学び得た事が記されている。第4章「人間から学ぶ」。人間の魅力や人間関係の面白さを説いている。第5章「生活から学ぶ」。学生時代に色々な事から学ぶ大切さを気づかせてくれる。第6章「希望をもつ強さ」。希望を失いかけている人に向けての章である。他人の評価を気にして人生を築くと自分を失う。自信と希望をもって卒業できることを教えてくれる。

本書には心打つ言葉が随所に隠されている。特に大学生活に不安を感じている学生は読んでみてほしい。前向きになれるヒントを与えてくれて、気持ちが軽くなると思う。



「大学で何を学ぶか」

加藤諦三

ベストセラーズ

所 在： 学生閲覧図書コーナー

請求番号： 377.9 カト

～ 吉川英治賞 ～

文学 大賞

少し前の話ですが、2013年夏、「名もなき毒」という連続テレビドラマがありました。主演の小泉孝太郎が演じる杉村が様々なトラブルに巻き込まれるミステリー作品。内に秘めた「毒」がリアルに表現

され、恐怖感を感じずにはいられませんでした。

さて、「名もなき毒」の原作者の宮部みゆきさんは、この作品で2007年第41回吉川英治文学賞を受賞しています。この賞がきっかけでドラマ化されたかは定かではありませんが、話題作だった事は間違いのないようです。

そもそも吉川英治賞はどのような賞なのか?気になって調べてみると文学賞、新人賞、文化賞の3つ設けられています。

宮部みゆきさんに贈られた文学賞は主にベテランの作家へ、新人賞は若手や中堅の作家へ贈られており、共に作品の多くが大衆小説となっています。

明治生まれの吉川英治は、不運続きで学校へは満足に通うことができず、様々な職業に就いた後、作家へ転じます。日本の古典的な国民文学作家として「宮本武蔵」などが広く読者に親しまれていました。

最後の文化賞は、日本文化の向上に尽くし、業績を上げながらも報われる事の少ない人や団体に贈られている賞で、今年度は夜間保育園を30年続けている片野清美さんら、他2名が文化賞を受賞しています。

これらの賞が生まれた背景は、作家吉川英治が終生国民大衆の幸福を願い続けたヒューマンイズムの意志を引継ぎ生まれた賞で、彼が育った環境や人柄も映し出している賞だと思います。今後どのような人たちが受賞するのか?楽しみですね。

(閲覧係 五十嵐 智子)

- 訪ねてみよう! 吉川英治記念館 -

東京都青梅市にある吉川英治記念館。300点の常設展示の他、イベント、ミュージアムショップなどがあります。

～ 史実に基づいたフィクション! ～

わたしの 本棚

「美術館で絵を見るのは二ガテ、絵を理解するってどういうこと?」そんなふうに思っていたなら、また「絵を見るのも描くのもだーいすき」という人も、心に残る一冊。

本書は、アンリ・ルソー(1844-1910)という画家が描いたある一枚の絵について、その絵の所有者がふたりのキュレーターを自邸に招き、真贋の判定をさせるという内容のアート・ミステリー。ふたりに課せられた条件は、全部で7章の物語を毎日1章ずつ読みすすめ、7日目に結論を出すこと。よりすぐれた講評をした方に軍配があがるのだが…。ふたりはそれぞれに言うに言われぬ秘密を抱えており、その心模様や背景に見え隠れする人間関係、力関係などが絶妙なスリル感を伴ってストーリーが展開されていく。

著者は、実際にもキュレーターとして活躍。六本木・森美術館の設立準備室在籍中には、ニューヨーク近代美術館に派遣されて勤務していたという実績の持ち主。その本領を発揮してか、徹底した資料調査ぶりが「画家ルソー」をくっきりと浮彫りにさせ、臨場感あふれる人物像を描き出している。また、この小説の根幹となっている「7章の物語」は、美術が持つ崇高で深遠な世界を、まるでおとぎ話のような趣で、すんなりと誰もが受け止めやすい言葉で綴っている。小説の中のふたり以上に、それを読むこちら側がどんどん引き込まれていくのだが、大事に、ゆっくりと味わいたくなるほど甘美で、読み終えることがもったいなくなる。

アンリ・ルソーの絵を、読んでから見るか、見てから読むか。この小説を読んだら、きっとその魅力に引き込まれ、「夢」を見たくなくなるはず。



「楽園のカンヴァス」

原田マハ
新潮社

所 在： ベストセラー

請求記号： ハラ ベストセラー

芹沢銈介美術工芸館
本田 秋子

図書館
日記

図書館 3F の絵本コーナーで行っている“絵本紹介”に気付いた人はどのくらいいるでしょう？7月から始めた展示は今までに何度か模様替えを

していますが、実はすべて、ライブラリーサポーターの力作なのです。立ち止まって眺めたり、展示していた絵本を借りていく学生さんがいたりして、ちょっと嬉しい反響が出ています。

総勢 25 名いるサポーターがそれぞれお気に入りの絵本を紹介しているのですが、それだけいると、長年読み継がれているもの、話題になったもの、「敢えてこれを選ぶか!」と思わず唸ってしまうものなど、実に面白いラインナップになっています。

実は図書館には、約 2,900 種類の絵本があるんです！その中からサポーターの手によって選ばれた絵本たちは必見です！サポーターにとっては実習や就活で忙しい合間の作業でしたが、「楽しかった。」という声が多く聞こえてきました。そんな中、一人でたくさんの紹介文を作ってくれたサポーターも何人かいたのですが、スペースの都合上、冊数を絞って貰わなければならないという、とても心苦しい展開になってしまったのでした・・・。

そうやってサポーターたちが厳選した作品は、定期的に入れ替えをしながら全員分を展示していく予定なので、勉強の合間に、是非バラエティ豊かな絵本紹介を楽しんでみてください。

学科も学年も個性もバラバラなサポーターたちがどんな絵本を紹介しているか・・・自分の目で確かめてもらえれば、2F カウンターで働いているみんなを今よりもっと身近に感じる事が出来るかも知れません (閲覧係 熊谷 幸)



インタ
ビュー

図書館体操って知っていますか？今回はその考案者である「みちのく図書館員連合(MULU)」の庄子隆弘しょうじたかひろさんにお話を伺いました！

図書館体操とは、図書館での日常業務の動きを取り入れて作られた体操のことなんです。テレビやラジオ等でも紹介され、図書館業界だけではなく教育現場等でも注目され、全国的な広がりを見せています。You-Tube でも 3 万回以上再生されています！

図書の移動の際(コレ大変な作業なんです!) ダイエットを意識して動作を大げさにしたところ、「体操にしてみたら面白いかも」と思いつき、制作に挑んだそうです。

90%はノリ(ユーモア)あとの10%がマジメな思いで作成され、その「10%の思いを組んでもらいたい」と庄子さんは話します。それは、図書館を面白いと感じてほしいという思いと、体操の中に、「書架から離れて下さい!」声を出す場面があるのですが、震災を記憶にとどめてほしいという2つの思いです。

図書館体操のカラオケバージョンも思索中との事ですので、授業の合間にみなさんも Let s 図書館体操!

(図書係 八巻 千穂)



みちのく図書館員連合(MULU):
東北6県の図書館員を中心としたコミュニティ



～ 中学生との交流 ～

中学生
職場体験

今年も五橋中学校4名と吉成中学校4名の生徒さんが「職場体験学習」に来てくれました。期待と不安を抱えつつも毎日熱心に業務体験をしました。

そんな中、今回は印象に残った二つの出来事を紹介したいと思います。まず一つ目は体験期間中、生徒さんが「分類かるた」にはまっていたことです。「分類かるた」とは我が図書館職員お手製のかかるたで、日本十進分類法という図書館員御用達の本からお題を出し、そのお題に当てはまる分類番号を並べるといふなかなかマニアックな遊び方をします。しかし生徒さん、昼食を終えた後事務室に入ってきて何か言いたげにしているなど思い聞いたところ、「かるた貸して下さい!」と言うではないですか!!自由時間である昼休憩中にも図書館の事に興味を持ってくれる生徒さん達は珍しく、私たち図書館員にとってはとても嬉しかった瞬間でした。

もう一つは中学生からの質問タイムです。「仕事をしていて大変だと思う事は何か」といったものから「年収は?」といったものまでいろいろな質問を受けましたが、中でも「どうしてこの職業に就いたのですか」という質問には初心に帰らせられました。日々業務をしていると忘れがちな気持ちですが、時には改めて口にするのもよいものですね。

私たちにとっても貴重な時間となりました。

(雑誌係 菅原 裕生)



図書館からのお知らせ

冬季休業中の長期貸出
期 限：平成 25 年 12 月 16 日(月)～
返 却 日：平成 25 年 1 月 8 日(水)
対象資料：図書
* ベストセラーも含む、貸出冊数は通常と同じ。

新コーナーのお知らせ
教科書・指導書コーナー...3F コピー機前、丸テーブル付近

1F フロア、リニューアル
1F フロアが明るくなり、展示スペースとしても利用できるようになりました。
ブラウジングには新しい什器が入り、広くなりましたので、是非ご利用ください。

ライブラリーサポーターの選書ツアー!
ライブラリーサポーターによる選書を行いました。
図書館内で展示を行う予定です。是非ご覧ください。

- 編集後記 -

今回の「としょかんぼう」はいかがでしたか。ご協力いただいた、山口政人先生、本田秋子さん、庄子隆弘さん、誠にありがとうございました。寒い季節がやって参りましたが、本を読むにはぴったりですね。素敵な本との出会いを求めて、ぜひ図書館に足を運んでください。あなたの一冊が見つかるかもしれませんよ。

五十嵐・菅原・八巻